

### 真菌感染



## 赤ちゃんのカンジダ症 (Thrush)

### 重要ポイント

- 口腔カンジダ症は抗生物質投与後にできることがあります
- カンジダ症は炎症を起こした皮膚にできます
- 沐浴後は皮膚のひだの部分をよく乾かすこと
- できるだけビニール性の服やおむつを避ける
- カンジダ症の治療にはコルチゾンクリームと医師の処方するカンジダ症専用の治療薬を併用することがあります
- 口腔カンジダ症には抗カンジダジェルや滴下薬があります
- おむつ部分のカンジダ症を防止するには
  - 一 おむつをこまめに替える
  - 一 おむつ部分をきれいにして良く乾かす
  - 一 下腹部や股の部分の皮膚をパラフィンや亜鉛クリームなどの保湿剤でガードする

### 症状

カンジダ症はスラッシュ (thrush) ともいい、*Candida albicans* という真菌による感染症です。口腔内（この場合を口腔カンジダ症という）や、下腹部、お尻、あるいはまれにわきの下の皮膚のひだなど、温かくて湿ったところを好んで増殖します。

口腔カンジダ症の場合、赤変を伴った白いクリーム状のぼろぼろの斑点ができます。普通は頬の内側にできますが、まれに歯茎や、口蓋、舌にできることもあります。

カンジダ症は下腹部やお尻の皮膚のひだの奥深くに発生し、大腿部や臀部の皮膚が直接触れあわない部分に広がります。健康な皮膚には発生しないので、通常、既存の湿疹（皮膚疾患）がカンジダ菌に感染して起こります。温かくて湿ったおむつ部分に多く見られます。患部は赤く光って見え、周辺部がかさぶたになることもあります。皮膚のひだから離れたところに小さい斑点が広がっていく場合もあります。

### 原因

全人口の20%は口腔内にカンジダ菌を持っていますが、発症しません。しかし、局所的な条件の変化（たとえば抗生物質の使用）が原因でカンジダ菌の異常発生が起こることがあります。口腔内に残存する食べ物（たとえば甘い飲み物や牛乳）が口腔カンジダ感染症の発症を促進することもあります。

## Japanese – Candida (Thrush) in Babies

皮膚のひだの湿気と温かさ（特に既存の皮膚疾患がある場合）がカンジダ感染症を呼ぶことがあります。皮膚のひだの疾患がカンジダ症を併発している場合、抗カンジダ治療をせずにコルチゾンクリームを使用すると、カンジダ症が悪化する恐れがあります。

### 治療

カンジダ症の治療には、おむつ部分にはクリーム、口腔内にはジェルや滴下薬を使用することがあります。皮膚疾患が併発している場合に弱いコルチゾンクリームの併用を勧められることがあります。母親の膣や乳首にカンジダ症がある場合、医師の治療が必要になります。

カンジダ菌が好む状況を避けるための注意事項

- 抗生物質の使用をできるだけ早く中止する
- 沐浴後皮膚のひだの部分を注意深く乾かす
- 温かくなりすぎないように、大きめの服を着せる
- 既存の皮膚疾患やおむつかぶれを充分治療する

より詳しい情報の入手先：

母子健康看護師

薬剤師

かかりつけの医師

皮膚科専門医

**関連する情報冊子:** [乳首の湿疹／カンジダ感染症\(Thrush\)](#)

© 2002, Department of Dermatology, St. Vincent's Hospital Melbourne, Victoria Parade, Fitzroy, Victoria 3065 Australia.